

令和6（2024）年度

学修状況等の把握に関する
アンケート結果における改善策

（大学版）

健康栄養学部 管理栄養学科

看護学部 看護学科

医療科学部 臨床検査学科

修 文 大 学

修文大学短期大学部

I R 本部

学習時間を上げるための改善策（令和6年度）

- 1 1年生(87.1%)・2年生(86.5%)・4年生(81.0%)の回答者数が少ない。
改善策 → アンケート実施の意義を十分に理解させたいうえで回答するように、授業毎に実施に向けた呼びかけを行い、実施したかどうかの再チェックをする。回答していない学生に対して直接アンケートを実施させる。
- 2 問 2 1週間の学習時間について 「不足している」、「やや不足している」と3年生が強く感じている。4年生は減少してきているが合わせると50%近い数字となっている。
問 3 学習時間が不足している原因は昨年度より減少しているが「科目・国家試験学習に身が入らない」、「プライベートな時間が多い」、「スマートフォン・タブレット等の使用時間が多い」の順番になっている。「アルバイトの時間が多い」が全学年とも増加傾向となっている。学習時間が不足していると回答した学生で、3年生「寝ている時間が多い」4年生「学校への通学時間に2時間取られるため」と回答している。
改善策 → ① 自身の目標・目的が明確でないと学習意欲につながっていかないので、学習する意味について授業の中で理解させる。(1年生時の基礎ゼミナールにおいて目標設定させる時点では皆やる気が漲っているのでその気持ちを持続させるようにしていく。)併せて、前期並びに後期の担任との面接時にポートフォリオの目標の確認と指導を行う。(管理栄養士になるためには国家試験合格が必須である。管理栄養士に求められている資質・高度な知識・大学が目指しているディプロマポリシーの内容等を十分に理解させる。管理栄養士と栄養士の仕事内容・給与(生涯賃金等)の違いについて十分に理解させる。)
② 授業毎で、過去の国家試験対策問題等を取り入れた授業を全教員がこれまで以上に取り入れるようにしていく。理解度を図るための小テストを行うことを周知し、採点后に正答の解説を行う等自らのチェックを單元ごとに実施させる。
③ 3年生には、臨地実習前の事前課題(各実習予定施設内容・献立作成・管理栄養士業務等について)を提出させ添削後に返却して再度調べさせる。実習後、実習における自らの課題解決に向けた取り組み内容と理解した内容を具体的に記載した報告書を提出させる。担当の教員によるチェックを行い不備な点があれば再度提出させる。期日

内に提出できなければ単位認定できないことを伝える。

④ 成績上位者への優遇制度（臨地実習先・ゼミの選択権等）を設けることにより自ら学習するように指導を徹底する。

- 3 問6 勉強場所については、「自宅・下宿・寮」が最も多く、「教室」「学生ホール、食堂、学生自習室、学生会館」は減少、「教員研究室」は昨年度比の半分となっている。4年生の回答内容で「学校で勉強しない」が多く見られた。

改善策 → 4年生では、大学で勉強しやすい環境づくりを各担当教員にお願いし、学生に満足度について確認のアンケートを行い結果により担当教員へよりよい環境づくりについての依頼を再度行う。他の学年において、出来るだけファミリーレストラン等のお店では、課題内容等も含め適切でないことを理解させ学内の「図書館」「学生ホール・食堂・学生実習室・学生会館」を使用するよう指導していく。

- 4 問8 アルバイトを行っている時間が20時間以上を上回った学生の割合が全学年で昨年度を上回った。平均時間でみると例年と変化はないが、1・3年生で増加している。

改善策 → 各学年とも担任面接において本人に状況を聞きだし、学生として勉強することが大切であり国家試験合格に向けて勉強することが大切であるが様々なケースが見られるので、状況に応じて学修に支障な内容にするよう指導を行っていく。

<看護学部 改善策>

問1 授業の予習・復習等（実習記録・課題・レポート作成及び国家試験対策の自習を含む）に使った1週間の合計学習時間

R3年度からR6年度の4年間の中でR6年度の学修時間数が最も多く、順に4年生38.1時間、3年生21.3時間、2年生10.8時間、1年生8.2時間であった。

また、学年単位で前年度の学修時間数を比較したところ、3年生以外は前年度より学習時間が増加している。

他大学看護学部の学生の学修時間では（R5A大学看護学部）、平均64.8分/日とあり1週間に換算すると7.56時間である。本学部の学修時間は1週間の平均18.8時間であることから、2倍以上多いといえる。また、昨年度、文部科学省が提示する平均学習時間5.2時間より1時間近く下回っていた学年であった現在の2年生についても、今年度は10.8時間で6時間増加している。

また、今回の4年生の学習時間については、前年度より上回っていた。4年生は、国家試験の受験勉強に関わってくるため、最も時間数が多いことは当然であるが、全員合格をしたR4年度の学生と同等の学習時間である。すなわち、今年度の4年生は国家試験の合格率も前年度から回復が見込まれることから、合格率と学習時間数には何等かの相関がある可能性も否定できないといえる。

前年度は、改善策として成績が芳しくない学生に対して「学習習慣と内容の確認と修正を早急に施し、教員の中でも共有して対応」することを掲げ、学生支援委員会を発足して対応した。

また、国家試験の100%合格を目指して、「学習時間が有効になる教材の選択や学習環境の見直し」を実施した。

これらの改善策が達成できたといえる。一方、時間数の増加だけではなく、今後は学習の質の向上も踏まえて対応する必要がある。

⇒改善策

1. R5年度の結果を「プラス」と捉え、前年度掲げた改善策を今年度も引き続き継続し発展させていく。
2. 講義のアクティブリコールを取り入れた課題など、自身で考えることに時間がかけられる学習を意図的に提示する。

問2 問1で回答した予習・復習時間等（レポート作成及び国家試験対策の自習を含む）についてどう感じているか。

今年度は学習時間数が増加したにも関わらず、学年全体の平均値では、「やや不足している」36.8%の回答が最も多かった。

学年別では、1年生から2年生は「不足している」、「やや不足している」に約60%が回答し

ているが、3年生から4年生になると「不足している」から「十分である」に割合が傾いている傾向がある。

3年生からは、実習や看護研究方法Ⅱ、および4年生は国家試験の受験勉強が学習時間の増加を認識させる要因と推察する。

特に、4年生については、半数以上が「まあまあ十分」と回答していた。前年度までの4年生と比較すると肯定的に捉えている人数が最も多かった。

1. 2年生については、学習時間が増加してはいるが、「十分」と捉える学生と、「不足」とらえる学生が2極化していることを理解した上で対応をする必要がある。

⇒改善策

現在の学習時間を「十分」と捉える学生と「不足」と捉える学生に応じた対応が必要。

平均的に学習時間は確保できているため、引き続きアドバイザーが学習状況を常に把握し計画的に学習ができるよう個々の特性に応じたスケジュールを作成するよう指導をする。

問3 問2で④不足している ③ やや不足している と回答した人は、不足している原因は何か。(複数回答可)

前年度同様に最も回答数の多かった原因は「スマートフォン・タブレット等の使用時間が多い」である。学年別の多い順で2年生(64.4%)、1年生(63.3%)、4年生(59.6%)、3年生(51.4%)で、いずれの学年も50%以上を占め、3年生以外の学年においては昨年度より使用時間が増加している。特に、使用時間の多い2年生、昨年度の72.9%よりは減少したが、以前として学習時間の不足している要因に変化はない。

また、「科目・国家試験の学習に身が入らない」は、1年生以外は増加傾向である。特に、2, 4年生が50%以上を占め、アンケート調査以来初の結果を示している。

「アルバイトの時間が多い」についても、1年生以外の学年は昨年度より増加し、2年生は1年生の時には32.9%であったが、今年度は56.3%を占めていた。

設問の「病院・施設の実習中のため学習時間が確保できない」の回答がについて3年生が多いとのことであるが、昨年度の3年生は70%以上を占めたが、今年度は約60%である。問1の学習時間については、例年より多い結果であるが、そのうち学習時間が不足していると自覚している学生は、実習中も学習時間が確保できずにいることが示されていた。

⇒改善策

1. スマートフォン・タブレットの利用時間については、学習に関連するコンテンツの紹介は引き続き実施する。

2. 科目・国家試験の学習に身が入らない学生は、学力低下に関係している可能性がある。また、実習中を理由に学習時間が確保できない理由も、上記と同様の可能性があると共に、実習においても学力低下としてリストアップされることが窺われる。したがって、学力

低下している学生に対しては、スマートフォン・タブレット使用時間や、アルバイトの時間についてアドバイザー面談で以下の対応をする。

- 1) スマートフォン・タブレットの使用時間を決めるなど個別的な対応を実施する。
- 2) アルバイト時間の詳細を確認し、時間の調整方法など具体的方法を提示する。
- 3) 場合によっては、今年度同様に保護者に連絡し現状を伝えた上で生活支援など協力を仰ぐ。

問4 問1で回答した学習時間の内、国家試験対策の学習に使った1週間の合計時間

令和5年度の4年生は国家試験の学習時間が少く、その結果が合格率にも如実に現れた。それと比較すると、今年度4学生の学習時間はこれまでの中で最も多い時間数であり、とても良い傾向である。

また、年々国家試験の学習時間は増加していることから、学部の国家試験対策について方法が定着してきたといえる。

一方、低学年の国家試験に関する学習時間が他学部より少ない。これは、昨年度同様、国家試験対策のスケジュールに沿った学習のみで自ら国家試験の学習をしていないといえる。

次年度は、低学年の国家試験対策としてこれまでのスケジュールから1歩進んだ対策を考える必要がある。

改善策は、昨年の内容を引き続き実施しつつ、低学年の国家試験対策も意図的に取り入れる。

⇒改善策

1. 低学年には、国家試験対策の模擬試験を受けた後の結果表の見方や、その後の振り返りの学習の仕方などを、業者に依頼してガイダンスを実施する。
2. 全学年について、模擬試験後の振り返りの学習の状況を確認するために、例えば再度同じ試験を夏休みなどに実施するなど、具体的なプログラムを作成する。
3. 4年生については、早期から国家試験対策への意識を高めるように業者を活用したガイダンスを実施し意識付けを行う。また、国家試験対策講座とアドバイザー教員の連携を重視し、模擬試験の結果を用いた学習強化を全教員で実施する。

問5 予習・復習に用いる教材

予習・復習に用いる教材は、「講師による配布資料」が最も多く、以下、「シラバスにある教科書・教材」、「国家試験過去問題」、「インターネット検索情報」の順であった。

1年生は「講師による配布資料」77.4%、「シラバスにある教科書」62.4%、2年生も「講師による配布資料」75.0%、「シラバスにある教科書」72.8%であった。教員が提供した資料を用いた学習に偏っている傾向であり、能動的な学習状況である。但し、シラバスにある教科書・教材による自己学習も6～7割程度の学生が活用して予習・復習を行うことができている。これらより、学生の学修内容は教員の力量に委ねられているとも言える。また、問

8の回答で「教科書の活用」を求める意見もある。一方で主体的な学習方法としては、「シラバスにある参考書」1年生16.1%、2年生22.8%と少なく、「インターネット検索情報」1年生29.0%、2年生38.0%と高く、特に3年生は63.3%と例年より高い割合であった。3年生は専門的な科目が増え、課題も非常に多く課されており、時間を費やした学習が不十分な状況であるため、手軽なインターネットによる検索をしがちであると考え。そのため、インターネット検索情報においては情報の信頼性を自ら精査できる能力が必要である。

⇒改善策

主体的な学修を促進するために、特に低学年では授業内で参考書を示す、教科書のどの部分を予習・復習するかを具体的に示すなどすることで、学生が自由に自己学習を進めていける環境を築いていく必要がある。また、低学年同様、3年生になった際にもインターネット情報のメリット・デメリットとともにネットリテラシーについても学生に周知する必要がある。さらに今年度も教員の教育内容を向上させるためFD活動である相互研修型授業参観の参加をより促進する。

問6 普段学習している場所

回答数の約47%が「自宅・下宿・寮」であった。

本学の施設としては、「学生ホール、食堂、学生自習室、学生会館」が13.6%と最も多い。次いで「本学の教室」(9.7%)、「カフェ、ファミリーレストラン」(9.2%)、「本学の図書館」(8.6%)であった。

看護学部においては、「本学の図書館」が1年生5.4%、2年生9.8%に対して、「カフェ、ファミリーレストラン」が1年生15.1%、2年生23.3%であった。3、4年生になると、「本学の図書館」が3年生15.3%、4年生23.2%と学年が上がるにつれて上昇傾向となっている。また、「カフェ、ファミリーレストラン」は、2年生以外は減少傾向にある。個人情報における情報モラルの指導の効果が現れていることが予測される。

3年生から4年生にかけては実習期間中のため、カフェなどの情報漏洩に繋がる場所での学習はさらに注意が必要である。1、2年生に関しては、図書館の有効活用を検討する必要がある。

⇒改善策

「カフェ、ファミリーレストラン」での学習について減少傾向にあるものの、看護学部は臨地実習や卒業研究など個人情報を取り扱う場合も多く、「カフェ、ファミリーレストラン」での学習が不適切な場合も多いため、今後も情報モラルの指導を継続していく。これまでも自己学習できる環境についての説明をオリエンテーションで行っているが、より適切な学修環境についても学生に周知し、学生ホールや図書館、あるいは教室の活用を促す必要がある。特に、図書館での学習を促進するために図書館の学習しやすい環境と実習に関する図書のさらなる充実ができるよう働きかける必要があると考える。

問7 授業時間以外で、学習やクラブ活動、友人との交流等のために学内にいる1週間の合計時間

看護学部においては、全体としては昨年度と比較して増加しているが、1、4年生は増加しているが、2、3年生は減少傾向にある。2024年度は修文祭が2日間開催されるなど、1年生にとっては大学内のイベントによる学生同士の交流の場が増えていることが伺われる。一方で3年生は2023年度1.5時間、2022年度1.4時間とが学内にいる時間がほとんどない。これは、もともと3年生は授業が5時限目までであることや3年生が実習中であるため授業以外で学内にいる時間は少なくなり、ゼミや実習グループといった特定の学生のみでの交流となってしまう、学内が交流の場として活用する機会が減少していると考えられる。

⇒改善策

- 1、2年生においては今後も学生の委員会や修文祭などのイベントなどにより、学生同士の交流が今後より活発になるような環境づくりが必要と考える。
- 3、4年生においては学内で交流する場が少なくなって学生が孤立することがないよう、アドバイザーの教員が面談等を実施して、個々の学生の状況を把握していく必要がある。

問8 アルバイトを行っている1週間の合計時間

最も多いのは2年生14.7時間で次いで1年生13.1時間、3年生8.1時間、4年生5.1時間であった。昨年度と比較して3年生は1.1時間、4年生は3.5時間減少しているが、1年生は0.9時間、2年生は0.6時間以上増加している。

アルバイトの1週間の合計時間が20時間を超える学生は、1年生が最も多く20.4%、次いで3年生17.0%、2年生16.3%の学生が20時間以上のアルバイトをしており、臨地実習や国家試験対策に十分な学習時間を確保できていない学生がいることが考えられる。

⇒改善策

昨今、学生はアルバイトで授業料など学生生活に必要な費用を賄っている可能性もあり、一概に減らすことはできない学生もいると考える。但し、必要以上のアルバイトにより学習時間を確保できない状況は臨地実習で単位が取得できない、看護師国家試験に不合格に直結する。

個々の学生状況をアドバイザー教員が把握し、成績と関連させて適宜指導する必要がある。また、必要であれば、保護者にもアルバイトの状況を伝え、協力して頂く必要がある。

学生から求められていることとして、国家試験に合格するための支援とわかりやすい授業である。普段の授業から国家試験を意識した授業づくりと学生の主体的学習を促進し、学生にとって印象的な授業内容を展開していく必要がある。

＜医療科学部 改善策＞

医療科学部のアドミッション・ポリシーとして、2. 臨床検査学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する。3. 自ら学修する意欲を有する。カリキュラム・ポリシー、2. 臨床検査技師に求められる知識と技術を修得する。4. 課題を主体的に発見し解決する能力を涵養する。ディプロマ・ポリシーの 2. 臨床検査に関する基礎的知識・技術、4. 医療情報を収集し主体的に学修する能力を進めていくためには、授業の予習、復習等が必要となる。

その時間を見ると医療科学部は、1、2年生の学習時間が10時間未満とかなり低い。3年生でやや増加し、4年生ではかなり増加している。1、2年生では自分から勉強する意欲がまだ低いことから来ると思われる。3年生から国試を意識して勉強を始める学生が増加しているものと思われる。学生の意識でも予習復習時間の少ない1、2年生と多い4年生にそれほど変化が見られない。多くが自己学習の時間が不足していると考えている。その原因として(問3)、スマートフォン、タブレット等の使用時間が多いことが1番である。IT技術を使用した学習を一方では進めていく必要があるが、自己学習ではスマートフォン、タブレットを使い一人で勉強すると、どうしても興味が他に向かい、集中できない。医療科学部ではそのため、自己学習を大学で行い、課題を決めて、数人で同じ課題を学習し、それを発表しあうことを進めている。問7に医療科学部の学生が授業以外で大学内にいる時間が令和7年にいくに従って増えているのはその指導のためと思われる。

2番に多い、科目、国試の勉強に身が入らないに関しては、教員の講義、実習を魅力のあるものにしていくこと、国試の切実感を模擬テスト等を利用して高める必要がある。”プライベートな時間が多い。”は大学生活を豊かにするためにこれらの時間も必要かもしれない。オンとオフの切り替えと、仲間学習するが1つの方向かと思われる。

医療科学部の4年生が通勤時間が長いことを挙げているが、その場合、通勤電車内での学習を進めることで対応する。

問4で国試勉強に使った時間が飛び抜けて多い頃が示されている。国試のある学部の特徴であり、早くから国試を意識させることが重要である。問6で勉強の場所が自宅、下宿、量が最も多い。自分で集中できる学生は一人で勉強するのが効率良いが、多くの学生がスマートフォン、タブレット等の使用時間が多いため、大学内での自己学習を進めるのが良いと思われる。

医療科学部では2,3年で1週間20時間以上アルバイトをしている学生が30%を上回った(問8)。授業料の支払いのためアルバイト時間が多い学生が少なからずいる。1,2年生でアルバイトや他の活動に時間をさくのは仕方がないかとも思う。

学生が期待すること

医療科学部では1年生から4年生まで、

1. 国試対策の講義
2. わかりやすい授業

の2つが突出して多かった。4年間の大学生活で大学に期待するものとしてはやはり圧倒的に国試対策であった。それをわかりやすく教えることを学生が願っている。

学生アンケートと3つのポリシーから考える医療科学部の対策

臨床検査技師の国家試験は、しっかり理解し勉強しないと合格できないレベルである。入学時偏差値の高い京都大学医学部人間科学科では、特に国試にむけた勉強は意識していないため、51.5%(新卒 72.7%)と低い。修文大学の一期生は国試特訓と模試を充実させたにも関わらず、62.5%と低い合格率に甘んじた。そこで、二期生からは3年生の10回の模試、4年生の20回の模試に加え、朝、9:00-10:30, 14:30-16:00の特別講義とその間の時間に小人数による自主学習をすることにした。今年度は新卒で90%の合格率が予想される。

アンケートでは自主学習の時間が十分取れていないことがうかがわれる。特に自宅だと、スマートフォン、タブレットを使い一人で勉強すると、どうしても興味が他に向かい、集中できない。このため、医療科学部では令和6年度から大学内で少人数学習を講義の間に進める方針を立てている。4年生は前述の特訓の間の時間を少人数自己学習時間とした。

3つのポリシー1に含まれる**臨床検査に関する基礎的知識・技術の習得**はこの試験対策をさらに進めることに加え、1年生から国試に重点を置いた授業をできるだけわかりやすく伝えることを各教員心がける。3つのポリシー2にある**自ら学修する意欲を有する。課題を主体的に発見し解決する能力を涵養する。医療情報を収集し主体的に学修する能力**は、自主学習する場、と時間が必要である。ただし、ハイここで、何時から何時まで勉強してね。と言っても、強制力がないと、できる学生以外自主学習はできない。少人数グループで助け合いながら模試で競わすことで結果がついてくれば主体的に学習する能力は身についてくる。学内で講義室、ゼミ室で講義の空いた時間に少人数で自主的に学習し(例えば、国家試験の模試5択問題の裏回答を自分で調べ作成する。国試の解説を動画形式で作成する。)、学習内容をお互いに**相手にわかりやすく伝える**。(3つのポリシー3)。